経営比較分析表（令和5年度決算）

埼玉県　熊谷市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**有収率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**
-	69.43	49.44	83.21	2,585

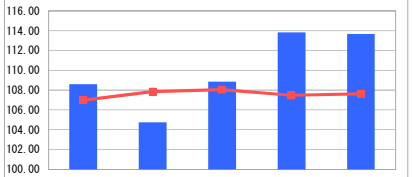
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
192,074	159.82	1,201.81
処理区域内人口(人)	**処理区域面積(km²)**	**処理区域内人口密度(人/km²)**
94,605	19.12	4,947.96

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

【105.91】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	108.60	104.74	108.84	113.85	113.68
平均値	106.99	107.85	108.04	107.49	107.64

②累積欠損金比率(%)

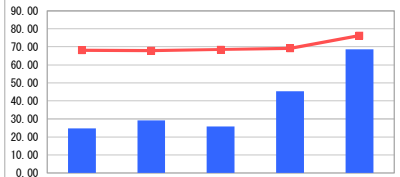
【3.03】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	7.42	4.72	4.49	5.41	5.61

③流動比率(%)

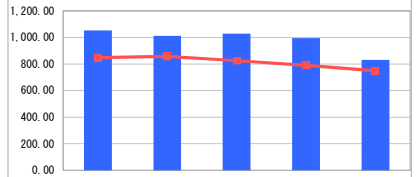
【78.43】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	24.74	29.32	25.86	45.46	68.69
平均値	68.18	67.93	68.53	69.18	76.32

④企業債残高対事業規模比率(%)

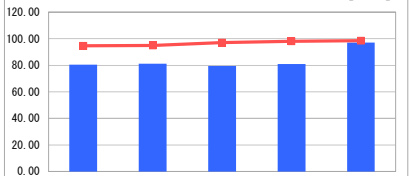
【630.82】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	1,052.03	1,012.28	1,029.33	995.11	831.48
平均値	847.44	857.88	825.10	789.87	749.43

⑤経費回収率(%)

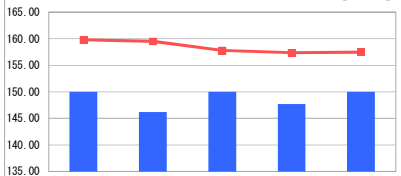
【97.81】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	80.45	81.21	79.51	80.95	96.93
平均値	94.69	94.97	97.07	98.06	98.46

⑥汚水処理原価(円)

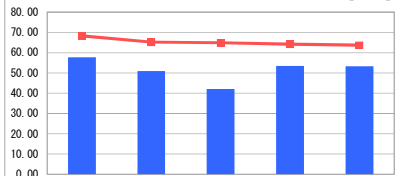
【138.75】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	150.00	146.19	150.00	147.68	150.00
平均値	159.78	159.49	157.81	157.37	157.45

⑦施設利用率(%)

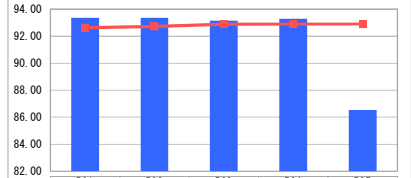
【58.94】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	57.80	50.95	42.19	53.49	53.35
平均値	68.31	65.28	64.92	64.14	63.71

⑧水洗化率(%)

【95.91】

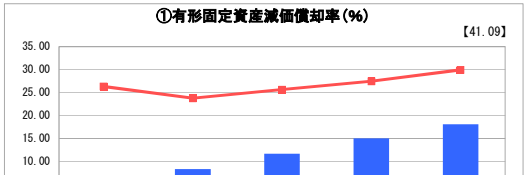


	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	93.37	93.36	93.16	93.29	86.54
平均値	92.62	92.72	92.88	92.90	92.89

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

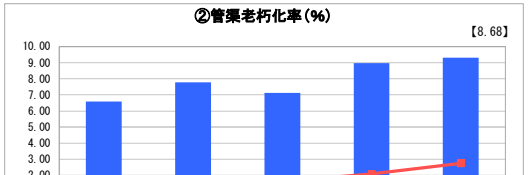
【41.09】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	4.23	8.34	11.68	15.05	18.07
平均値	26.36	23.79	25.66	27.46	29.93

②管渠老朽化率(%)

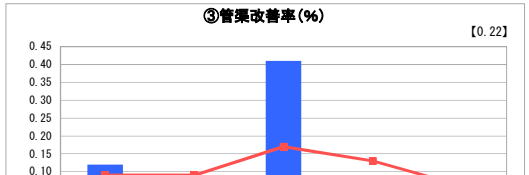
【8.68】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	6.59	7.79	7.12	8.98	9.31
平均値	1.43	1.22	1.61	2.08	2.74

③管渠改善率(%)

【0.22】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.12	0.07	0.41	0.05	0.03
平均値	0.09	0.09	0.17	0.13	0.06

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を上回っており単年度収支は黒字となっている。
②累積欠損金比率は0%。累積欠損金は発生していない。
③流動比率は、数値的な改善は見られたものの、依然として100%を下回り、類似団体平均や全国平均も下回っている。今後も引き続き内部留保資金の確保に努めていく。
④企業債残高対事業規模比率は、使用料改定による効果及び年度内に予定していた企業債が繰越で借入できなかったことにより数値としては下がったものの、新規布設による企業債借入の増加を見込んでいるため、次年度以降は増加する見込みである。
⑤経費回収率は、100%を下回っているものの、令和５年度に行った使用料改定の影響で大幅な改善が見られた。経過措置が切れた後の決算となる令和６年度はさらに良好な数値が期待できることから今後は赤字補填である基準外繰入金を解消する予定である。
⑥汚水処理原価は、類似団体平均を下回っているが、全国平均を上回っている。汚水処理費にかかる流域下水道の維持管理負担金の割合が非常に高く、当面同程度の水準で推移する見込み。引き続き、流域下水道に流入する不明水の対策などによる費用削減に努める。
⑦施設利用率は、類似団体・全国平均を下回っているが、下水道事業が整備途中であることから、整備の進捗と普及促進による接続率の上昇を図っていく。
⑧水洗化率は、算定方法を見直した結果、類似団体平均を大きく下回ることとなった。今後も100%の実現を目指し、広報誌の活用等を通して接続への普及活動を続けていく。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体平均、全国平均を大きく下回っている。これは平成31年度から地方公営企業法を適用した際、平成30年度までの償却累計額相当分を資産価額から差し引き、資産を新たに取得したと見なして帳簿価額を決定していることから今後も数値が上昇する見込みとなっている。
②管渠老朽化率は、平均を上回っている。本市下水道事業は現在も管渠布設を進めているものの、耐用年数を迎える管渠延長の方が大きいため数字が改善しない。なお、耐用年数を超えた管渠等の更新工事は、今後ストックマネジメント計画に基づき、経過年数にかかわらず計画的に実施していく。
③管渠改善率は、令和３年度に積極的な管渠更生工事を進めた反動からその後の数値は下がっている。今後もストックマネジメント計画に基づき、耐用年数を超えた管渠の中でも特に、管渠調査の結果による緊急性の高いものから計画的に更新工事を実施していく。

全体総括

単年度収支は黒字となっており、経常収支比率や経費回収率なども、使用料改定の結果、大幅な改善を果たしたと言える。
ただし、流動比率も改善が見られるものの、依然良好とは言い難く、改善を意識しつつも現金などの内部留保が十分とは言えない状況が継続している。
　これらを踏まえ、令和2年度に策定した経営戦略に基づき、計画的かつ効率的な投資を行い、健全で安定した下水道事業の運営に努める。

※　「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみの類似団体平均値及び全国平均を算出しています。